

科目名		放射線衛生学演習	
科目責任者		大津山 彰 (放射線衛生学 准教授)	
開講時期:	2～3年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 45 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>様々な生化学的な手法を用いて、急照射した様々な動物組織のDNA損傷の解析を想定し、提案した個々の手法の妥当性と、得られた結果の信頼性について検討ならびに考察を行う。また動物個体への長期照射を想定し、飼育管理と観察方法を検討し、同様に提案した個々の手法の妥当性と得られた結果の信頼性について考察を行う。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生化学的な解析方法についての説明ができる。</li> <li>2) 生化学的解析方法を駆使して、DNA損傷やタンパク質発現異常の解析法を考えられる。</li> <li>3) 動物個体を用いた実験を計画できる(遺伝子改変動物、微生物管理の手続きを含む)。</li> <li>4) 動物個体を用いた実験で統計解析ができる。</li> <li>5) 動物個体を用いた実験で病理学的解析ができる。</li> <li>6) 動物個体を用いた実験で生化学的解析ができる。</li> <li>7) 放射線照射装置(線源が放射性同位元素やX線管)の確実な操作ができる。</li> <li>8) 様々な照射実験に応じて安全管理・防護の処置を適切に計画できる。</li> </ol>			
● 評価方法	演習内容の過程、結果の記録を都度レポート形式で提出させ評価する。		
● 参考文献	演習の中で必要に応じ紹介する。		